

現代建築作品の模型写真における空間表現

奥山研究室 11_10995 笹岡 賢佑 (SASAKI, Kensuke)

1. 序 建築の模型は、建築の基本的な情報を伝える図面やドローイングに対して、立体的情報を伴ったイメージを伝える重要な表現である。それらは模型材料の素材感を統一し抽象化された建築の骨格が示されたものや、建築の詳細を模型材料の素材感の切り替えにより具体化して示すものなど、建築家の独自の表現がなされている。さらにそれらを写真に収めるフレームの範囲や視点の位置といったの構図の選択により、模型表現の特徴を効果的に表している。そこで本研究では、現代建築作品の模型写真¹⁾を資料として、模型の表現形式と写真の構図を検討することで、建築家の空間イメージの表現手法の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 模型の表現形式 ここでは模型を建築模型と敷地模型とに分けて捉え、建築模型における材質や色といった素材感による違い（以下、差異表現）と敷地模型の有無を合わせて模型の表現形式として検討した（図2）。まず、建築模型の差異表現については、部材単位での素材感の違いにより建築の詳細を具体化して示す**具体差異化**と、用途によるゾーニング、動線、室単位などに対して素材感を変えることで建築全体の領域的な構成を示す**抽象差異化**、全て同じ素材感で統一された**差異表現なし**の3つに分類した。次に、敷地模型のあるものに関して、素材感が建築模型と**同調**するか、**異なる**かを検討した。これらの表現形式に対して、人や家具などの添景の有無

を合わせて検討すると、抽象差異化の約半数に添景が表現されており、他の表現形式に対して高い割合を示した。このことから、建築全体の領域的な構成を示す建築模型では、人々の活動やその場の用途を規定する家具を配置することで、領域ごとの性格の違いを表す傾向にあるといえる。さらに、建築模型の内部空間を示す表現として外皮の捨象表現を整理したところ、模型を分割する、または外壁や屋根をはずす**分解**と、外壁や屋根をアクリルなどの透過素材に置き換える**透過**に分類した（図3）。

3. 模型写真の構図

3-1. 模型写真のフレーミング 模型写真のフレームに対して模型が収まる範囲をフレーミングとして、その構図を検討した。敷地模型あるいは建築模型をフレームから切り取って撮影することで、模型が表現する世界のみを示すものを**フレームアウト**、模型全体をフレーム内に収めて撮影することで、対象化されたオブジェクトとして模型を示すものを**フレームイン**に大別した。さらに、フレームアウトについてはその被写内容が建築模型の**全体**か**部分**かについても検討した（図4）。

3-2. 模型写真のアングル 次に、模型を撮影するアングルを、視点の高さから、真上から模型を見下ろすもの（**真上**）、上部から撮影するもの（**ハイアングル**）、下部から撮影するもの（**ローアングル**）に大別し、さらに建築模型に対する**正対・非正対**を検討した（図5）。



図1. 分析例

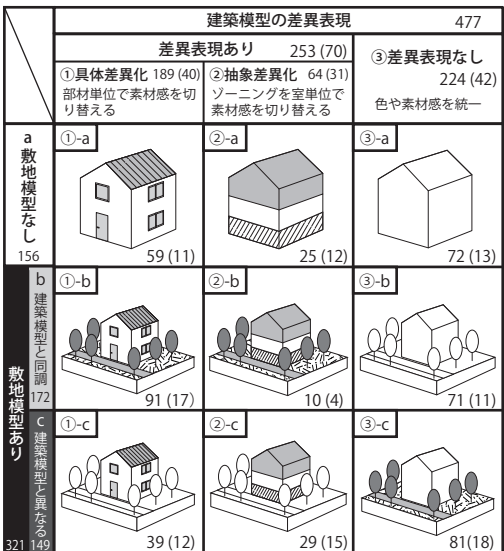


図2. 模型の表現形式

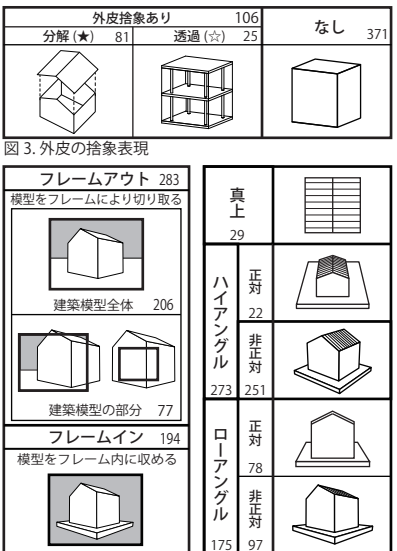


図3. 外皮の捨象表現

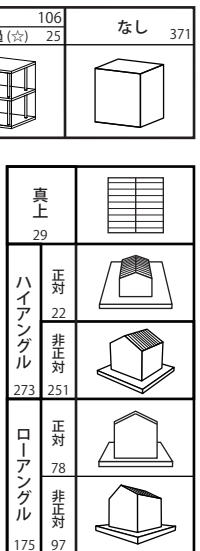


図4. 模型写真のフレーミング



図5. 模型写真のアングル

4. 現代建築作品の模型写真にみる空間表現

前章までに捉えた建築模型の差異表現を横軸に、模型写真のフレーミングを縦軸にとり、敷地模型の表現と模型写真のアングルとの対応を示したものが図6である。まずフレームアウトの建築模型全体を写すものでは、具体差異化において、建築模型と敷地模型を同調とするものが 約8割と他の表現形式と比較して多くの資料がみられ、またアングルの内訳をみると、ハイアングルかつ正対が相対的に多くみられた。ここから、フレームにより模型が表現する世界を切り取って示す場合、周辺敷地を含めて具体的に素材感を表現し、建築が佇む全体的な様相を示す傾向にあるといえる。また、フレームアウトの建築模型の部分の写すものでは、差異表現のある模型が多くみられた(50/73)。このことは建築空間の部分的な特徴を断片化させてより強調する傾向といえる。フレームインでは抽象差異化及び差異表現なしの割合が高く、これらの敷地模型の有無を検討すると、抽象差異化には敷地模型のないものが約8割を占め、高い割合を示した。また、これらのアングルの内訳に着目すると、敷地模型のある場合はほとんどがハイアングルであるのに対して、

敷地模型のない場合は約半数がローアングルから撮影されたものであった。ここから、写真のフレームにより模型を対象化し即物的に示す場合、建築全体の構成がコンセプチュアルな素材感の差異化により示され、周辺と切り離されることで、抽象的な建築の構成が強調されるものと、素材感の統一により建築の持つ形のみが示され、さらに低い視点により周辺から自立した建築の形が示されるもの、また周辺と一体化した建築の有様が俯瞰的に示されるものという特徴的な模型写真における空間表現を見出した。

5. 結 以上、現代建築作品の模型写真における空間表現を模型の表現形式と写真の構図から検討した。その結果、建築が佇む全体的な様相を限定的に切り取って示すもの、建築の抽象的な構成や形をオブジェクトとして示すものという模型写真における空間イメージの表現の特徴を見出した。このことは建築家の空間に対する異なる認識を反映しているものと考えられる。

註1) 1980年以降の「a+u」誌に掲載された288の建築作品を示すカラーの模型写真計477枚を資料とした。
既往研究
大森真樹、坂本一成、ほか：建築作品の外観模型にみる構成表現、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.375-376、2003

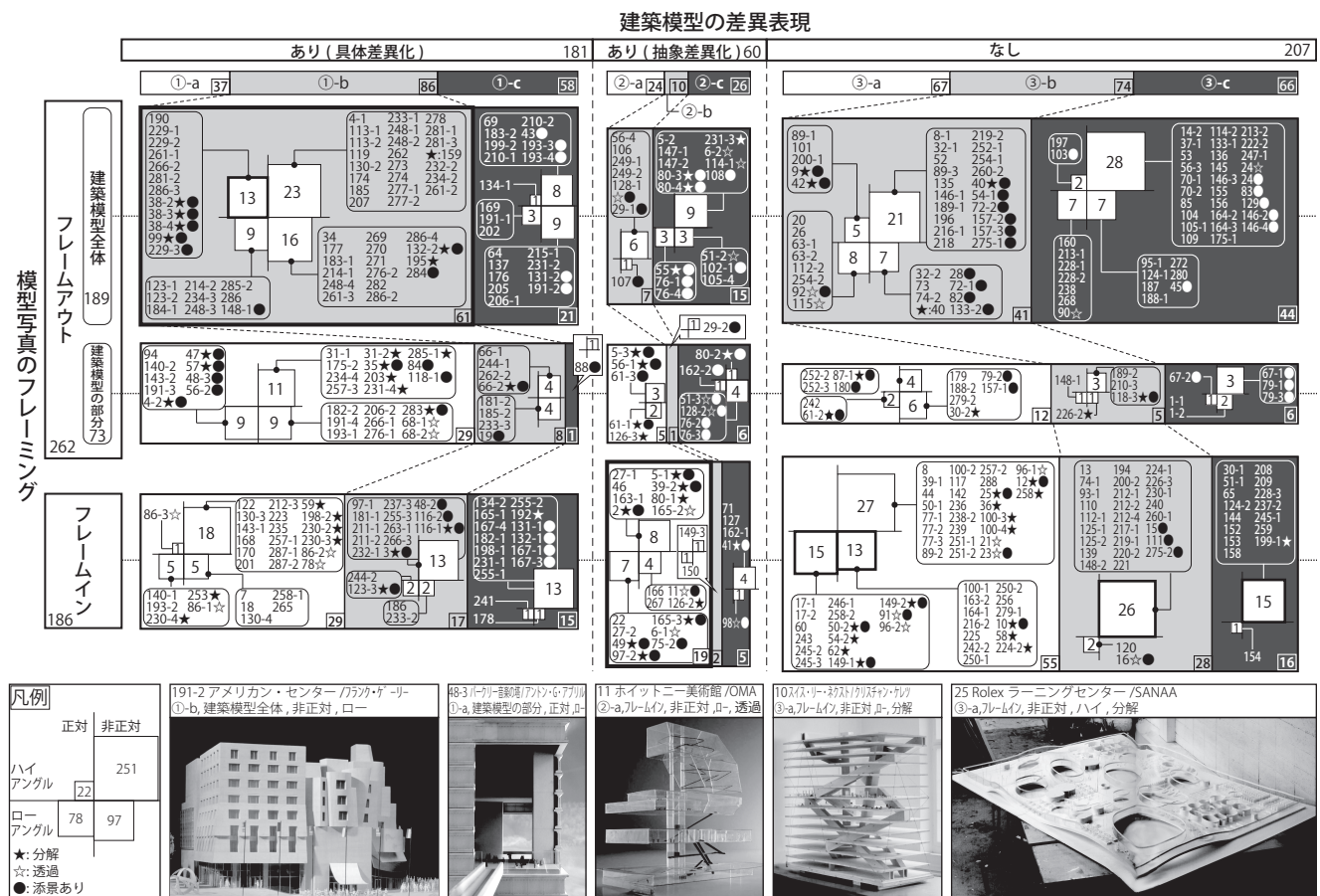


図6. 模型写真にみる空間表現